

場所 茨城県ひたちなか市

面積 9.78ha

活動目的 「地域生態系の形成・維持と30by30実現への貢献、従業員・地域住民の意識啓発による生物多様性保全主流化推進の場づくり」を目的とし、事業所に残された自然が、近隣の生態系ネットワークを形成し貴重な自然資本であることを自覚し、従業員と共に維持と向上を図り、ネイチャーポジティブを実現することを目標としている。



サイト概要 日立製作所水戸事業所は、都市化が進行しているひたちなか市に位置している。自生するアカマツ高木が事業所創設時の森の姿に近い形で維持されるとともに、サギ山地区と呼ばれている緑地帯には、当該地域の潜在自然植生と推定されるタブノキ林やエノキ林を中心とした高木林がまとまって維持・管理されている。水戸事業所内のサギ山地区と事業所内緑地帯には、2023年の現況調査の結果、植物127種、哺乳類2種（生息痕）、両生類1種、爬虫類2種、昆虫類184種、陸産貝類2種、クモ類3種等が確認され、都市域にも関わらず外来種の侵入は少ないことが確認されているなど、多様で健全な生態系が維持されていると評価できる。希少な生物としてハヤブザ等が確認されている。

土地利用の 変遷

茨城県ひたちなか市の地に1940年、日立製作所水戸工場(現：水戸事業所)が新設された。サギ山地区は遊休地であり、その後神社が創建され、現在に至るまでサギ山地区の一部は鎮守の森として、開発計画の対象とされず維持されてきた。その後、工場立地法の規定に基づき水戸事業所内緑地を再整備。2017年生態系保全の意識の高まりを受け、ボランティア従業員による組織を結成。会社とボランティア従業員が相互にかかわりながら保全活動を実施している。

サイト周辺の 環境

周辺約1kmの範囲は顕著に都市化・住宅開発が進行しており、緑地は近隣の小中学校、社寺林、大島公園にわずかにみられる。広域的な視点からみると、事業所の緑地帯およびサギ山地区は都市化が進行しているひたちなか市において、保全が期待される貴重な民間緑地と評価できる。

アピール ポイント

事業所内緑地は、都市化が進行しているひたちなか市の生態系ネットワーク形成・維持に貢献する貴重な地域の中核的緑地である。事業所内で希少種であるハヤブサ等が確認されている。当該地域の潜在自然植生と推定されるタブノキ群落がまとまって残存する一方で、外来種の侵入率が低い。従業員および地域住民の自然ふれあいの憩いの場、環境学習の場などの文化的サービス提供の場となっている。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

- ・調整サービス：事業所内緑地には、多くの高木林が維持・管理されている。
- ・文化的サービス：サギ山地区は日立水戸サギ山クラブによる管理措置が持続的に講じられており、社員および地域住民の自然ふれあいの憩いの場、環境学習の場となっている。

【主な植生】

針葉樹林（ヒマラヤスギ群落・アカマツ林）……3.33ha

常緑樹林（タブノキ群落）……2.51ha

落葉樹林（エノキ林）……………1.35ha

草地……………2.59ha

潜在自然植生（＝健全な植生遷移進行がみられた場合に成立）のタブノキ群落がまとまってみられる。

【確認された主な動植物など】

- ・植物：タブノキ、スダジイ、エノキ、ヤマグワ、ネズミモチ、モチノキ、ヤツデ、フジ、オモト・小動物：ノウサギ、タヌキ、モグラ科の1種（生息痕）、イタチ科の1種（生息痕）、ニホンアマガエル、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、
- ・鳥類：ムクドリ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ウグイス、コゲラ、ハヤブサなど
- ・昆虫類：ニイニイゼミ、ミンミンゼミ、カブトムシ、オオヒラタシデムシ、ベニシジミ、ムラサキシジミ、ゴマダラチョウ、ハグロトンボ、キムネクマバチ、エンマコオロギ、ショウリョウバッタなど



写真の説明：タブノキ林（サギ山地区内）



写真の説明：アカマツ林（事業所内の緑地帯）

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

環境省、茨城県がレッドデータリストに掲載する種が確認されている。

【確認された希少種】

- ・ハヤブサ（環境省：VU、茨城県：VU）
2016年～2017年に行われた8回の鳥類調査のうち、7回で確認されており、かつ、事業所内の研究塔を休息の場として頻繁に利用しているのが確認されている。サギ山地区および事業所内の緑地帯を採餌場としていると可能性も高いと評価できる。



写真の説明：ハヤブサの休息が確認された研究塔

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

サイト周辺 1 kmの範囲内にまとまった緑地が分布していないことを考慮するとサイト内で確認された動物（ノウサギ、タヌキ、アオダイショウなど）は、サギ山地区および事業所内の緑地帯を主要な生息の場としているとか推測される（休息、繁殖、採餌など）。特に、希少種としてとりあげた、ハヤブサについては、事業所内の研究塔を頻繁に休息の場として利用しているのが確認されている。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

【対象となる動物種】

- ・ハヤブサ、ノウサギ、タヌキ、アオダイショウ等

【動物が利用している生活史】

- ・ハヤブサ
事業所内のエレベーター研究塔を休息の場として利用しているのが頻繁が確認されている。
- ・ノウサギ、タヌキ、アオダイショウ等
事業所内の緑地帯（草刈り管理がなされている草地）でノウサギ、タヌキが目撃されていたり、サギ山地区および事業所内の緑地帯でアオダイショウが確認されたことから、サギ山地区および事業所内の緑地帯は採餌の重要な場となっている可能性が高いと考えられる。



写真の説明：ノウサギ（撮影場所：診療所裏）



写真の説明：タヌキ（撮影場所：熊野神社裏）

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>・下記に示すA～Eの5項目</p> <p><場></p> <p>A.調整サービスを提供する健全な生態系の保全 =サギ山地区の在来種を中心とした生態系の健全性の維持と樹林の継続的な管理</p> <p>B.文化的サービスを提供する健全な生態系の保全 =サギ山地区の在来種を中心とした生態系の健全性の維持と継続的な利活用</p> <p><種></p> <p>C.希少な動物（ハヤブサ）の生息の場の保全・繁殖の場の保全 =事業所内の多様でまとまって分布する植物群落の保全（常緑広葉樹林（タブノキ林）、落葉広葉樹林（エノキ林）、針葉樹林、草地：合計9.78ha）</p> <p><機能></p> <p>D.当該地域の地域生態系ネットワークの拠点緑地の保全 =事業所内の多様でまとまって分布する植物群落の保全（（常緑広葉樹林（タブノキ林）、落葉広葉樹林（エノキ林）、針葉樹林、草地：合計9.78ha）</p> <p><課題への対応></p> <p>E.特定外来生物：アカボシゴマダラの生息実態把握のためのモニタリング調査</p>	<p>【モニタリング対象】</p> <p>a: サギ山地区の生態系の健全性の維持 b: サギ山地区の樹林の管理状況 c: サギ山地区の継続的な管理・利活用実態 d: 事業所内の多様でまとまって分布する植物群落の保全状況 e: 特定外来生物・アカボシゴマダラの生息実態</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>専門家による動植物調査・従業員参加モニタリング調査</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】</p> <p>1回/年程度実施</p>